

2015年度 明治学院大学 FD活動について

1. FD・教員評価検討委員会開催

開催	議題
第1回 5月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度の授業評価日程と内容の件 ・今年度のFD推進活動について ・シラバス記載内容のチェック機能体系化について ・2015年度FD委員会予定の件
第2回 10月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度秋学期授業評価実施の件 ・明治学院大学FDサイト開設の件
第3回 3月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの推進について

2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況	
春学期	6月29日(月)	対象授業	学部 2,127 大学院 70
	～7月11日(土)	実施	学部 1,929 (90.7%) 大学院 52(74.3%)
秋学期	12月3日(木)	対象授業	学部 2,031 大学院 54
	～18日(金)	実施	学部 1,775 (87.3%) 大学院 38(70.3%)

3. FD関連学外研修会等への参加

①	<p>日本私立大学連盟主催「FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)」</p> <p>テーマ : 大学職員の職能開発とFD</p> <p>日程 : 8月4・5日</p> <p>参加者 : 河野菜月(法学部)、熊谷英人(法学部)、VALLOR Molly(教養教育センター)</p>
②	<p>大学コンソーシアム京都主催「第21回FDフォーラム」</p> <p>テーマ : 大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ～</p> <p>日程 : 3月5・6日</p> <p>参加者 : 野口久美子(国際学部)、飯島正人(総合企画室)</p>
③	<p>京都大学高等教育研究開発推進センター主催「第22回大学教育研究フォーラム」</p> <p>日程 : 3月17・18日</p> <p>参加者 : 野口幸代(文学部)、本多まりえ(文学部)</p>

4. 学部・学科のFD活動

文学部

英文学科

英語関連科目ワークショップ（非常勤教員対象FD）

英文学科では年度末に英語関連科目担当の非常勤講師を対象に教授法向上のためのFDを実施している。2015年度は英語母語教員と日本人教員合計約30人がこの半日ワークショップに参加した。ワークショップでは、各担当分野（writing, reading, speaking等）ごとに分科会を開き、モデルクラスのプレゼンテーション、教授法や教科書使用に関するディスカッションを行い、科目担当者同士の情報共有の場とした。毎年ICTの教育活用を促しているが、今年度は1、2年生reading関連クラスにおいて、非常勤教員によるオンラインツールの積極的な活用事例等も報告された。次年度に向けてもオンラインで利用できるreading、writing教材について情報を共有し、授業で実際に活用できるように引き続きサポートしていく。また、このFDでは、担当専任教員が最新の学科カリキュラムについて資料を配布し、詳細を説明することで、学科の教育方針について理解を深め、適切な授業実施を促すことも目的としている。学科の英語関連科目のさらなる質的向上を目指し、今後も継続して開催していく。

フランス文学科

フランス文学科では、本学科の学生のニーズやカリキュラム体系に過不足なく適合するようなフランス語教科書を作成するため、2011年度より作業を進めてきた。この教科書が、2015年1月に『Accès—くわしく学ぶフランス語の基礎』として完成、2015年度4月より、フランス文学科1年生の文法の授業において使用を開始した。この教科書については、すでに13年度春には試行版が完成しており、以来、制作に直接あたった教員はもちろん、他の教員もこの試行版を実際の授業において使用してきた。その実績、さらには今年度の手応えから言えば、学生の動機づけにおいても、フランス語の習得度においても、他の教科書を使用した時と比べて明らかに改善傾向にあり、また同一の教科書を使用することによって教員相互の教授法の確認もスムーズになったと考えられる。今後は、この教科書を継続して使用しつつ、必要に応じて修正を随時加えながら、本学フランス文学科の学生によりふさわしい教材に育てていくつもりである。

また、本学科では、より効果的な教育を行うために、カリキュラム改革案を2014年度より練り上げてきた。その結果、2015年度に改革案が決定、承認されて、2016年度より新カリキュラムに移行する運びとなった。新カリキュラムは、フランス語の授業にさらなる多様性を与えることで学生のさまざまなニーズに応えること、専門教育科目の分類をわかりやすくして学生による授業の選択を容易にすることに主眼を置くものである。

さらに2015年度には、留学制度のさらなる充実を図るべく、半年間の中期留学の行き先として、現行のパリ・カトリック学院に、ディジョンにあるグルノーブル大学付属語学学校を加えることを決定した。今年度は、2015年9月に7名の学生がパリに出発、現地で11月に起こった同時多発テロ事件にもかかわらず、2016年度1月までの留学生生活を全員が全うしてくれた。来年度は、行き先が二つに増え、選択肢が広がることで、中期留学への関心、意欲がさらに高まることが期待される。また、1年間の長期留学に関しても、国際センターの協力のもと、新たな協定先としてニース大学との交渉を開始。来年度の協定締結に向けて準備を進めているところである。

芸術学科

- ・昨年に引き続き、秋学期に日本レコード協会寄附講座「クリエイティブビジネスと著作権」を開講。履修対象者として学部の枠を超え、文学部、社会学部、経済学部、法学部、法科大学院の学生に開かれた講座で、現場の第一線で活躍している各界のゲスト講師を招き、著作権の基礎知識と現場の対応について学ぶ。
- ・シンポジウム、講演会の開催
 - 6月5日（金）講演会「ドキュメンタリー映画作家 アン・兼子 上映とトーク」
 - 6月13日（土）シンポジウム「アクセスの再定義～日本におけるアクセス、アーカイブ、著作権をめぐる諸問題～」
 - 6月20日（土）講演会「中国独立映画のプラットフォーム：俳優ワン・ホンウェイ（王宏偉）の多様な貌」
 - 7月10日（金）レクチャーコンサート「政治的歌曲の夕べ～「社会参加」と「芸術表現の」のはざままで～」
 - 11月14日（土）『ワキノタン』上映とシンポジウム」
 - 12月5日（土）シンポジウム「創造・伝達・記憶の場としての版画」
- ・ICTを活用した映像・音響制作を含む授業の実施
- ・双方向型ワークショップ形式の授業の実施
- ・授業評価の実施、学科内での情報共有と検討
- ・学生へのヒアリングの実施

社会学部

社会学科

社会学科では、1年生から4年生まで切れ目なくゼミなどの少人数科目を履修し、それを軸に学生が独自の学習カリキュラムをたて、実践的な学習効果を高められるよう努めてきた。社会学部の入学前教育プログラムなどとあわせて、最初の2年で「社会学をつかう」力をつちかい、後半の2年でそれを独自の研究成果につなげることを基本としている。

2013年度から準備を開始した前半2年間の少人数クラスのカリキュラムが、2014年度に完成した。今年度の特筆すべき活動として、下記のようなものがある。

1. 科目の継承と充実

(1) 「アカデミックリテラシー」(1年次春学期)の継承と充実

2013年度に、論理的な思考、読解、記述、議論のための基礎的な力をつけることに重点を置く「アカデミックリテラシー」を開設した。2015年度も、前年度の反省を踏まえ各回の授業内容を見直したうえで、教養教育センターからも兼任教員の援助を受け、カリキュラムの充実を図った。

(2) 「社会学基礎演習」(1年次秋学期)の継承と充実

「社会学をつかう」ことを重点とする「社会学基礎演習」(要求科目)についても、前年度の反省を踏まえ各回の授業内容を見直したうえで開講した。講義・テキスト読解とグループワークを組み合わせて、教育効果を高めた。

(3) 「表現法演習」「質的データ分析」(2年次秋学期)の継承と充実

2014年度から2年次秋学期の少人数クラスとして「表現法演習」を開設し、従来から存在す

る「質的データ分析」とあわせて選択必修とした。表現法演習では、受講した学生が制作した作品を報告書などにまとめ次年度への継承を試みた。また、下記に述べる学科研修会にて今年度の反省点を学科の全教員で共有し、次年度に備えることとした。

2. 学科教員間の FD・学習会

(1) 学科研修会の開催

7月と3月に学科研修会を実施した。「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」「表現法演習」の経験を学科で共有することを主目的に、4年間の学習効果をどのように高め、また、卒業時にそれをどのように検証するか、などについて、議論した。

(2) 担当者会議の開催

「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」「表現法演習」の学習効果をより高めるため、担当者会議を実施、今後の方向性について確認した。

(3) 教学改革プロジェクト「内なる国際化」への参加

当該プロジェクトには、主に主任が中心で参加をしてきた。本プロジェクトの目的や概要については、学科会等でも報告し、概ね他教員とも共有されている。また、開催された勉強会等への学部長からの参加呼びかけに応じて、複数の教員が参加をした。

2016年度より、エスニシティ論を専門とする新任教員が着任する。この新任教員を含め、今後どのような形で学科教育プログラムの中に取り入れていくかは課題として残されている。

社会福祉学科

社会福祉学科は、7年前に、ソーシャルワークコースと福祉開発コースの2コース制を導入した。ソーシャルワークコースは主に国家資格を取得し、社会福祉実践現場において専門職として活躍できる人材の育成を、福祉開発コースでは現在の社会福祉制度に縛られることなく、新たなニーズを見出しそれに見合った支援を、一般社会の中で開発していける人材育成を目指している。以上の点を踏まえてFDを行った。

以下、その要点について列挙する。

1. 初年次教育の充実に向けた取り組み

(1) 2016年度からの「アカデミックリテラシー」開講に向けての準備

2015年度までは、1年次の演習科目は秋学期からの開始であった。しかし、より学習意欲の高い春学期から、大学での学びに相応しい読解力、表現力を付ける必要があることを認識し、春学期にアカデミックリテラシーを新規科目として開講することとした。

開講準備に当たって、既に類似科目を開講している明共科目担当者から、授業の運営方法、教授法等を聴き取りし、社会福祉学の学びに相応しいコンテンツについて、カリキュラム委員を中心に検討会を行った。

教科書の選定及び各クラスでの進め方に関するマニュアルを作成し、担当する非常勤講師との打ち合わせ等を複数回行うなど、準備を進めている。

(2) 「基礎演習」の内容の再検討

これまでアカデミックリテラシーの取得を目的としていた「基礎演習」に関しては、2016年度から大幅な内容見直しが必要である。来年度より初年次教育検討に関する担当者を複数決定

し、春学期中に教育内容を検討する予定である。

現時点での合意事項として、社会福祉の支援対象となる生活課題をより实际的に理解できるようなフィールドとの接点を模索し、そこから関連する情報の収集、資料の検索といった春学期習得のリテラシーを応用する教育内容とする予定である。

(3) 教学改革プロジェクト「内なる国際化」への参加

当該プロジェクトには、主に主任が中心で参加をしてきた。これは、法制度外の社会福祉支援対象者を含む領域であり、今後の福祉開発コースにおける一つの有力なフィールドとなる可能性を感じたことによる。このような問題認識については、学科会等でも概ね他教員と共有されている。開催された勉強会等への学部長からの参加呼びかけに応じて、複数の教員が参加をした。

しかし、残念ながら異文化コミュニケーションや移民問題などを専門とする教員は現時点で在籍しておらず、今後どのような形で学科教育プログラムの中に取り入れていくかは課題として残されている。

(4) 「社会政策論」開講と教員の採用

労働と福祉に関連する科目強化として2016年度新規開講することが春学期に、学科会議によって合意を得た。それに伴い、社会福祉政策の一環として労働問題を教授できる教員採用を目指し、秋学期より新任人事を立ち上げた。結果として、金成垣氏を担当者として迎えることとなった。

(5) 特別支援教員養成の強化と教員採用

特別支援教員養成課程について、教育学と社会福祉学を融合した形態での教員養成を目指し、そうした教育研究に相応しい人材を確保することを昨年度基本方針として確認している。結果として高倉誠一氏を担当者として迎えることとなった。

今後、社会福祉学科では特別支援教員の養成に関して、本格的に取り組むこととなるが、他教員はこの領域について不明な点も多く、卒業生の教職採用に関して成果を上げていくためには、他の教員も知識と理解を深めていく必要がある。カリキュラム委員会が中心となって、教員養成課程に関する情報の共有化を進めていくことを、学科会議等において確認している。

(6) 学科研修会の開催

例年通り、7月に学科研修会を開催し、今後の人事計画等について議論を行った。

(7) カリキュラム委員会の定期開催について

従来社会福祉学科では、カリキュラム委員会を必要に応じて開催してきた。しかし、今年度のように複数の新任人事や、新規開講科目の検討がなされると、委員参集日時の調整が困難であった。従って次年度からは、曜日と時間を固定化し、定期開催にすることを次期主任への申し送り事項とした。

法学部

1. 授業公開：春学期と秋学期に教員間で授業公開を行っている。2015年度は、春学期は、5月11日（月）から同月23日（土）の2週間、秋学期は、11月9日（月）から同月21日（土）までの2週間、実施した。事前にアンケートで、実施科目、事前連絡の有無等を確認して、授業公開一覧表を作成して、掲示およびメール配布をしている。

2. 定期試験の問題と解説の公表：2013年度から、e-Learning 上または学部オリジナルHP上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2015年度の春学期定期試験については、8月25日（火）から9月7日（月）まで公開した。秋学期定期試験については、3月8日（火）から3月21日（月）まで公開する予定である。解説・講評の公表が主目的であり、問題の公開は任意である。掲載場所は、e-Learning 上の「講義内容」または「教材」のどちらかであり、e-Learning を使用しない教員のためにHP上の掲載場所も設けている。
3. 法律学科のFD会議：法律学科では、例年秋学期開始時にFD会議を実施している。2015年度は、9月30日に、1年次配当科目FD会議として、「民法入門」、「刑法入門」、「基礎演習1」について、FD会議を実施した。民法入門については、統一テストの試験結果や講評が行われた。基礎演習1については、学科設立50周年を迎える2016年度の授業開始に向けて、統一教科書『フレッシューズ基礎演習』（中央経済社）を出版する予定である。現在、校正作業を進めているところであり、4月中旬には刊行される。さらに、2月2日には、「ワインをめぐる法と政策」研究会において「ワイン法におけるFD」と題する報告があり、今年度はじめて開講された法律学特講「ワイン法」の試験・レポートの結果について講評があった。同科目は、おそらく日本では唯一本学法学部のみが開講していることから、今後も引き続きFD活動に取り組んでいく予定である。
4. 消費情報環境法学科の情報処理関係科目のFD会議：消費情報環境法学科では、2015年度は、12月9日に情報処理関係科目（情報処理1～4、法情報処理演習1・2）のFD会議を実施した。①情報処理の1クラスの人数（現状40名以上）の問題、②必修科目としての法情報処理演習2の現状と課題、③学科CDのあり方（あまり利用されていない）について話し合った。①については、現状ではクラスの増設は困難であるので、非常勤担当の3クラスについては35名以下とすることとなった。②については、各担当者の授業内容、学生のモチベーションなどについて意見交換を行った。③については、次年度にワーキングチームを立ち上げて本格的に検討することとなった。
5. 政治学科では頻繁に学科会議および研究会を開催し、学科内で十分な意思疎通を図りつつ、教育・研究に取り組んだ。学科会議は、頻繁に開催した。①AO入試学生の入学後の単位取得、成績状況を追跡調査し、情報の共有を計りながら、今後の注意事項について話しをした。②フィールドワーク授業(2年)の履修状況について、履修者が減少している状況に関して話し合いをした。学生に履修を促していくこととした。③2015年3月に『初めての政治学』の改訂版、また学科での新たな教科書『政治学の扉』を刊行したことで、1年ゼミ（政治学基礎演習）で、基礎文献として利用することを確認し、基礎知識の共有・習熟に取り組んでいくことにした。④学科人事に関連して、メディア・ポリティクス関連科目の設置と再編を議論した。継続して検討していくとした。

国際学部

国際学科

日程	ターゲット	内容	資料・報告者
2015年4月8日	国際学科教員	1年次教育 基礎講義科目のカリキュラム・計画と意見交換会	学科会メモ
2016年9月23日	国際学部教員	英語開講科目の教育実施例 Teaching in English	アナウンスメント 田中・ヴィシー 李ソヨン
2016年1月13日	国際学科教員	基礎演習における ライティング指導	あり 野口・重富
2015年3月27日	非常勤英語教師	Classroom Management, Critical Thinking, and Responding to Student Writing	あり 上野・井川
2015年7月13日 2015年7月17日 2016年1月7日 2016年1月8日	非常勤英語教師	Assessing Student Writing	あり 上野・井川
2016年2月12日	非常勤英語教師	English for International Studies New Focus: Teaching Communicative English Teaching TOEFL	あり 上野・井川 あり 井川・上野

国際キャリア学科

日程	ターゲット	内容	資料・報告者
2016年9月23日	国際学部教員	Teaching in English のワー クショップ他	アレキサンダー・ヴ ッシー イ・ソニョン 合場敬子、田中桂子、 戸谷浩

上記のFD活動を国際学科と共同で行った。尚、報告者のうち3名は、国際キャリア学科の教員である。

心理学部

1. 2015年度第1回心理学部FD研修会

日時：2015年7月29日（水）14:00～15:00 場所：心理学部会議室

講師：花田安弘

テーマ：「第21回大学教育研究フォーラム（2015年3月京都大学）紹介」

内容：講師が参加したフォーラムでの発表の中から、質保証、ライティングサポート、ルーブリック、アクティブラーニング、ICT活用、キャリア教育、修学支援の7つのテーマについて、それぞれいくつかの発表の内容を紹介した。

参加：約30名

2. 2015年度第2回心理学部FD研修会

日時：2015年10月14日（水）13:30～15:00 場所：1401教室

講師：武蔵野大学教務部長 小西啓史教授

テーマ：「大学の教育改革（武蔵野大学の事例）」

内容：武蔵野大学における教育改革について、教務部長小西教授より、お話しを伺った。学生の卒業要件として成績（GPA）が2.0以上（つまりB以上）であることを課すなど、非常にユニークな改革を行い、卒業生の学力を保証しようとしている点が、参考になった。

参加：約30名

教養教育センター

実施日		名称	対象
2015年	9月17日	英語コミュニケーション上級クラス担当者研修会	専任教員 非常勤講師
2016年	2月8日	中国語研修会	
	2月18日	外国語教育に関する研修会 講師 稲垣善律氏	
	2月18日	スペイン語研修会 講師 Concha MORENO GARCIA 氏	
	2月18日	ドイツ語研修会	
	2月18日	ロシア語研修会	
	2月18日	英語(EC2)研修会	
	2月18日	韓国語研修会	
	2月下旬	哲学・論理学部門研修会	
	3月11日	公開講演会 講師 松下佳代氏	
3月12日	キリスト教研修会	専任教員	
3月24日	英語(EC1)担当者研修会	非常勤講師	

以上